

## CONTENTS

企画展 良薬口に苦しーくすりと人のあゆみー	2
第68回文化講演会報告	3
企画展 生誕180年記念 岸田吟香 ~わかふるさとは~	4
資料館展示品から	5
NEWS FILE	6 7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 10  
June, 2013

シーホルトの高弟となった石阪(坂)桑亀は、現在の美咲町境の出身です。棚田の中を緑風に誘われるまま、境神社から美作台地広域農道(作州街道)に沿って久米南町北庄方面に500mほど坂道を登ると、桑亀の父・多作が眠る石阪家の墓所にたどり着きます。墓石には「来迎院法乘明飯居士」、左側面には「俗名石阪多作行年80才」、右側面には「天保十一歳庚子九月十二日入定」と刻まれています。となれば、1828(文政11)年に発覚した「シーホルト事件」のニュースは必ず伝聞したに違いありません。「息子を想ってあれこれと心を痛めたんだろうな」などと、墓を前に想像を巡らせてしまいました。(久米郡美咲町境)



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



企画展

# 良薬口に苦し

—くすりと人のあゆみ—

薬は、私たちの生活に欠かすことのできないものです。古くから人々は、病や傷を癒そうと、薬になるものを探し、見つけた薬の知識を積み重ねてきました。

江戸時代には、中国から伝来した薬のもととなる物を研究する「本草学」が発達し、すぐれた本草学者が誕生しています。一方では、西洋の薬の知識も伝わり、宇田川玄真や榕菴をはじめとした洋学者たちが研究をはじめました。本展では、江戸時代から明治初期にかけて刊行された薬学書や、医師が用いた薬箱などを展示し、こうした洋学者や医師たちの研究への取り組みを紹介しました。

展示を観覧された方々からは、「まったく未知のものだった西洋の薬の研究に取り組んだ洋学者たちの努力に感銘を受けました」などの感想が寄せられました。



▲今回の企画展では、実際に製薬の道具「薬研」を使える体験コーナーも設けました。薬研は、薬研車の重みで薬をすりつぶします。なかなか扱いは難しく、「難しい!」「重い」などの声をもらしつつ、たくさんの方が挑戦しました。



## 第68回文化講演会

### 「非常に生きた本草学者—平賀源内」

講師 法政大学通信教育講師 土井康弘先生

4月21日(日)、第68回文化講演会を、GENPOホールを会場として開催しました。今回は「非常に生きた本草学者 平賀源内」という演題で、法政大学通信教育講師・土井康弘先生にご講演いただきました。

土井先生は以前から『一滴』に何度も寄稿していただき、資料館に最もご協力いただいている研究者のおひとりです。そんな土井先生から、本草学者であろうとした源内の生涯をご紹介いただきました。

源内は讃岐国(現香川県)高松藩の足輕の家に生まれました。源内は本草学だけでなく、戯作や鉦山開発等を手掛け、数多くの号を持っていたことでも知られています。現在でもよく耳にする、「土用の丑に鰻」は、源内が、夏場に売り上げの落ちる鰻屋のために考えたものといわれ、日本におけるコピーライターの草分けとも呼ばれているゆえんです。本草学の分野では火洗布やエレキテルの復元等が有名で、もっぱら山師的・興行師的な側面が取り上げられることの多い源内ですが、その行動は「民に益せん」という思想に基づいていたことをご紹介いただきました。

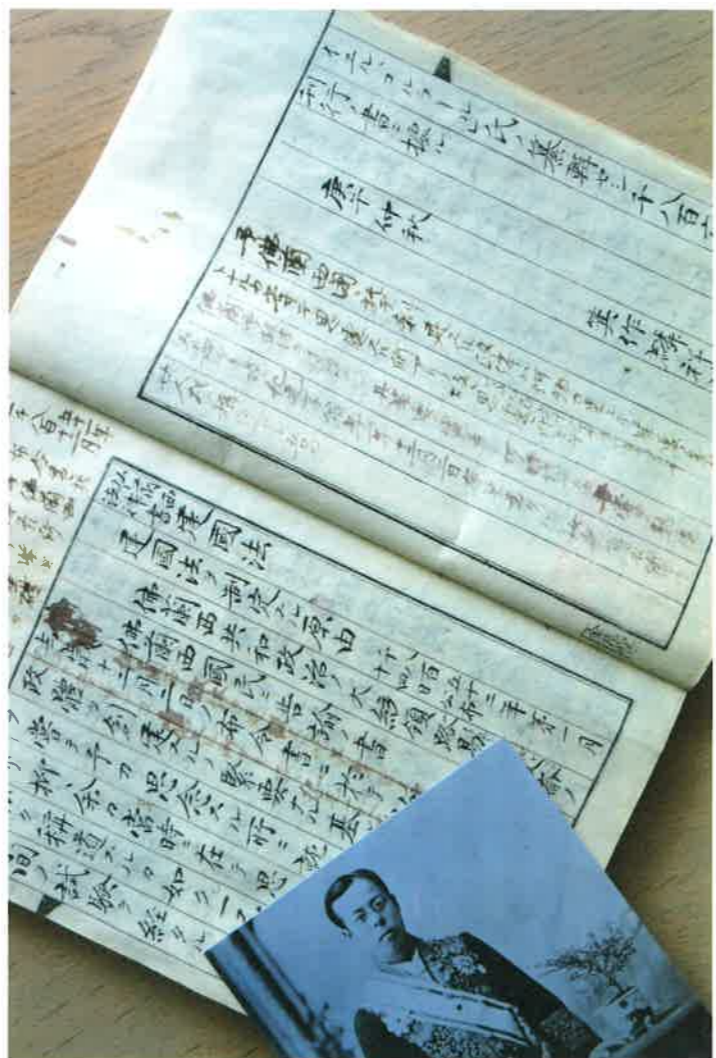
また、蘭学の始まりとなった、『解体新書』の解剖図を描いた小田野直武は、源内から蘭画の技法を伝えられています。そして、講演の最後では、デタラメ英語を始めたのも源内であることを、楽しく教えてくださいました。

前日の雨から、一転して晴れの一日となった当日は、たくさんの方にご参加いただきました。先生からも、時間を超過するほど、熱のこもったご講演をいただき、盛会の内に今年度の講演会を終えることができました。

### 資料館展示品から

#### 翻訳の苦心を伝える稿本

## フランスほうりつしょ けんこくほう 『仏蘭西法律書 建国法』



▲『仏蘭西法律書憲法』と麟祥

▲『仏蘭西法律書憲法』と麟祥

これは箕作阮甫の孫・麟祥あまほが書いた、フランス法律書の翻訳稿本です。津山出身で、朝日新聞社や全日空の社長を歴任した美土路昌一みとろあきらが、若い頃に銀座の夜店で偶然に見出し、購入。のちにご子息が資料館へ寄贈してくださったという、珍しい来歴を持つ資料です。1867（慶応3）年、麟祥はパリ万博に派遣された徳川昭武あきたけに随行し、ヨーロッパへ渡りました。滞欧中に独学でフランス語を習得し、その語学力を評価されて、明治になると政府からフランスの法律書の翻

訳を命じられます。明治初年には、法律の整備が急務となっていて、その参考にするためでした。麟祥は『法律書』と題し、刑法、民法、訴訟法、憲法、商法、治罪法の順に、5年かけて全40巻を翻訳・刊行します。「建国法」は、このうち1873（明治6）年に刊行された『憲法』の稿本です。「庚午」とあるので、1870（明治3）年に記したと分かります。朱筆でたくさん書き込みがあり、刊行本と比べてみると、それらがきちんと修正されています。さて、この稿本で麟祥は、Constitution

を「建国法」と訳しています。ところが、刊行本では「憲法」と言い換えられています。実は、「憲法」の語を、現在のような意味付けで使ったのは、麟祥が最初なのです。法律の概念や用語の翻訳は難しい作業で、のちに麟祥は「註釈書もなければ辞書もなく、教師もいないという訳で、実に五里霧中でした」と懐古しています。この稿本を見ると、そんな麟祥の苦労が伝わってくるようです。

文：学芸員 田中美穂



生誕 180 年記念企画展

## 岸田吟香 ～わがふるさととは～



▲岸田吟香の生誕地（久米郡美咲町栃原）

▶精錡水の引札に描かれた吟香（個人蔵）

今年、岸田吟香ぎんかが生まれてから、ちょうど180年にあたります。吟香は、横浜でアメリカ人医師・ヘボンに才能を見出されて日本初の和英辞書『和英語林集成』の編集を手伝い、ヘボン処方による日本初の液体目薬・精錡水せいせきすいを発売。また、ジョセフ・ヒコとともに日本で最初の邦字新聞『新聞紙』（のち『海外新聞』と改題）を創刊しました。明治になると、東京・横浜間に蒸気船の定期航路を開き、銀座に薬舗・楽善堂らくぜんどうを開店。日本初の従軍記者でもあり、日本初の盲啞学校・訓盲院くんもういんの創設にも尽力するなど、72歳で没するまで多方面でまさに先駆的な役割を果たしています。そんな吟香が生まれ、若き日を過ごしたのが、ここ美作でした。吟香は「呉淞日記」の中で「わがふるさととは美作の国久米の郡の埤和といふ処にて山里なり」（原文を漢字に改めました）と、故郷の思い出を感慨深く記しています。本展では、吟香と郷里とのつながりを中心に、その生涯と多彩な活躍を紹介しました。開催にあたり、資料の借用をはじめ多大なるお力添えを賜りました関係各位に、心から御礼申し上げます。



ローデリック・ウォルズオランダ総領事来館

4月17日（水）、在大阪神戸オランダ総領事館のローデリック・ウォルズ総領事が来館されました。総領事は昨年8月に就任され、現在、オランダと縁のある地を順次訪ねているそうです。今回の訪問では、来館に先立って市長への表敬訪問もされました。学芸員の案内で展示室を観覧された総領事は、時おり質問もされながら熱心に資料に見入っていました。観覧後には「オランダと津山との関係の深さがよく分かりました。自由に留学できない環境下で、洋学者たちがこれほどの研究を行ったことに感銘をうけました」とお話しされました。資料館とオランダ総領事館との関係は、昭和60年にさかのぼります。資料館の友の会主催で実施した「オランダ料理の夕べ」のため、料理について総領事館に問い合わせをしたことがきっかけとなり、翌61年に当時のJ・H・Aレイデックオランダ総領事が来館されました。同年にはH・Cポスチュマスマイエス大使も来津され、以来15回にわたって歴代の大使や総領事が来館されています。



西幼稚園遠足でワークショップ実施

5月17日（金）、西幼稚園の園児と保護者の皆さんが、遠足で来館しました。最初に展示室を見学し、その後「うごく絵のひみつ〜ソーマトロープをつくらう〜」と題してワークショップを行いました。ソーマトロープは紙の表と裏に描かれた2つの絵が、回転させると1つの絵に見える、アニメーションの原型です。子どもたちは紙に色を塗って貼り合わせ、四苦八苦しながらもうまく回転できると「見えた！」と歓声をあげていました。

NEWS FILE  
シーボルトハウス  
館長来館



2月9日（土）、オランダのライデン市にあるシーボルトハウスの館長・クリス・スヒールマイヤーさんと、日本関係コーディネーターの沼田邦子さんが来館されました。平成23年11月以来、2度目の来館となるスヒールマイヤー館長は、企画展を中心に展示を観覧されました。そして、友好提携館として、今後双方がどのように協力し、事業を展開していくかなどについて、当館の館長と協議を行いました。

伊原木岡山県知事来館



4月5日（金）、春の交通安全県民運動推進大会のため来津された伊原木岡山県知事が、資料館に来館されました。今回が初めての訪問となる伊原木知事は、学芸員の案内で展示室を観覧されました。説明にあいづちを打ちながら、「美作の洋学者たちはすごいですね」と、終始とても興味深そうに展示に見入っておられました。Uギャラリーでは、設置されたハンズオン資料も手にとってご覧になりました。

津山ライオンズクラブから電子看板と傘立寄贈



◀電子看板 ▲傘立

津山ライオンズクラブから、資料館にデジタルサイネージ（電子看板）と傘立が寄贈されました。4月12日（金）に贈呈式が行われ、会長の国政省さんから小坂田館長へ目録が贈られました。その後、館長より感謝状を手渡しました。デジタルサイネージ（電子看板）は、動画や静止画、文字など

のデジタルデータを、ポスターのように画面に表示することができます。国政会長から「観光客へのPRや、会議、研修にも活用してください」とのお言葉をいただきました。電子看板は現在、ホール前に設置して、企画展の案内に活用しています。

# INFORMATION

平成25年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「岸田吟香～わがふるさと～」</li> <li>21 第68回文化講演会 講師：法政大学通信教育講師 土井康弘 先生</li> <li>21 友の会総会 (休館日：22・30日)</li> </ul>	4/20～ 生誕180年記念 岸田吟香 「わがふるさと」
5月	(休館日：1・7・8・13・20・27日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 友の会研修バス旅行 (休館日：3・10・17・24日)</li> </ul>	～6/23
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「解体新書と美作の洋学者たち」</li> <li>28 ヒンデローベン絵付け体験教室 (休館日：1・8・16・17・22・29日)</li> </ul>	7/6～ 解体新書と美作 の洋学者たち
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 江戸時代の化学書からの再現実験教室 (休館日：5・12・19・26日)</li> </ul>	～9/29
9月	(休館日：2・9・17・18・24・25・30日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「よみがえる長崎 出島のくらし」 (休館日：7・15・16・21・28日)</li> </ul>	10/12～ よみがえる長崎 出島のくらし
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会史跡見学会 (休館日：5・6・11・18・25・26日)</li> </ul>	～11/17
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「くらしと学問 一用水路を掘れ」 (休館日：2・9・16・24・25・27～31日)</li> </ul>	12/1～ くらしと学問 (仮)
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・6・14・15・20・27日)</li> </ul>	～3月 下旬
2月	(休館日：3・10・12・17・24日)	
3月	(休館日：3・10・17・22・24・31日)	

■ 企画展   
 ■ 催し物   
 ■ 講演会   
 ■ 友の会



## 洋学資料館の 夏休み教室 開催!

### A 親子でヒンデローペンの作品づくり

オランダの民族模様でTシャツに絵を描きます。

平成25年7月28日(日) 10:00～12:30

対象：小学4～6年生と保護者 10組 20名

参加費：1点作成 1300円・2点作成 2200円

※Tシャツはご持参ください。

### B 江戸時代の化学書からの再現実験教室

宇田川榕菴の化学書『舎密開宗』に掲載された実験を行います。

平成25年8月1日(木) 13:30～15:30

対象：小学4～6年生 20名

応募方法：往復はがきに、①氏名 ②住所 ③電話番号 ④学校名・学年 ⑤希望の教室(A・Bいずれか)を記入の上、津山洋学資料館までお送りください。

締切：7月20日(土) ※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

＜送付先＞ 〒708-0833 津山市西新町5 津山洋学資料館

### ヒンデローペン 絵付け体験教室(一般向け)



オランダの民族模様でTシャツに絵を描きます。

平成25年7月28日(日)

14:00～16:30

対象：一般

参加費：1300円

※Tシャツはご持参ください。

電話で洋学資料館(23-3324)までお申し込みください(先着順)。

一職員の異動一

館長 下山 純正 平成25年3月31日 退職  
館長 小坂田裕造 平成25年4月1日 着任

## ご利用案内

■ 開館時間/9:00～17:00

(入館は16:30まで)

■ 休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)

■ 入館料/

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。



**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



## ● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分